

## 当院の院内感染について

雲南市立病院 院長 西 英明

皆さん、このコロナ禍の中、ご自身の感染に注意を払いながらの通常業務、どこの部署でも大変なものと推察致します。皆さんの日頃からのご努力、ご苦勞に感謝しております。このコロナ禍が収束するまで、今しばらく堪えて頑張ってください。

さて先月2月22日に、当院職員から新型コロナウイルスの感染者が発生いたしました。それに伴い、翌23日、私も人生初の、記者会見をさせていただきました。良くも悪くも、記者の質問や批判を、あれくらいでかわせたのは、まあ上手くやったかなと、密かに喜んでいます。しかし批判をかわすだけで、問題はそこにはありません。記者会見の際は、島根県の意向もあり、敢えて、“院内感染”という言葉を使いませんでした。しかし今回の事象は明らかに院内感染で、業務上で、患者から感染したものです。幸い他のスタッフ、他の病棟の患者に拡散せず、一名のみの感染で収まりました。これは奇跡的なことで、当院の感染対策の賜物です。

院内感染は、地中に埋まった地雷を踏むことに例えられます。地雷を踏んでしまった人は悪くありませんが、踏んでしまったら、踏んだ人も、周りにいた人々も無事では済みません。そのため地雷を踏まないように、努力、工夫することが、日々、各人に必要となります。この努力・工夫が、感染対策です。今回の場合、万全であったはずの当院の感染対策に、何らかのほころびがあったものと考えます。このほころびを修正しなければなりません。当然今回の事例も、十分に検証されなければなりません。その上で、反省すべきは、反省し、修正すべき所は修正いたします。ただ今は、愚直に、目の前の現在の感染対策マニュアルを実行して下さい、そのマニュアルが、埋まった地雷のありかの地図になります。お互い、地雷を踏まないよう努力しましょう。マニュアルを再度確認し、今一度初心に戻って、手指衛生の徹底、マスク、ゴーグルの着用の徹底からお願いします。まずはそこからです。

なお言うまでも無いことかもしれませんが、感染された職員が無事回復され、濃厚接触者の方々が、隔離期間が終わり、無事仕事復帰されましたら、“大変だったね”の一言だけで、明るく、暖かく迎えてあげて下さい。皆さんの詮索は不要です。検証は感染対策室で十分に行います。宜しく願いいたします。

(令和3年2021年3月1日夕べの集い・院長あいさつに加筆しました。)